

地域防災啓発訓練を実施

現場対応の連携強化

令和7年11月9日(日)、大牟田特別支援学校において、秋の防災予防運動の一環として地域防災啓発訓練を実施しました。これは、地域住民と消防本部・消防団等が連携し防災意識を高めることにより、地域の防災体制を構築することを目的として実施するものです。訓練内容は、学校敷地内で火災が発生したことを想定し、延焼による被害拡大のおそれがあるため、現場指揮本部の設置運営や長距離のホースラインを形成した放水訓練を行う火災防ぎ訓練を実施しました。

みなと分団 分団長 山下 和也

みなと分団においては、ホース展開を含めた一連の動作を安全かつ円滑に行い、確実な放水活動につなげることで連携強化を図りました。訓練では各分団が連携し、実際の災害現場を想定した活動を実施しました。今回の訓練を通じて、連携と圧力計の関係を改めて理解するとともに、無線を活用した分団間の情報共有と連携強化が、緊急時における迅速かつ安全な消防活動の実現に極めて重要であることを再認識しました。



天領分団 分団長 水永 敬一郎

貴重な消防署との合同訓練という事で、入団ホヤホヤの方や活動経験の少ない団員を選抜し参加。手延べで展開すべき所も訓練不足でホーススカーを使う次第となりました。その反面で補助の団員からは、俯瞰で他の分団の動きが観れて良い勉強になった。今回は複数のポンプ車と可搬ポンプによる合同作業と厳しい設定で、機関員の技能や一つの放水ラインで繋がった車両間の連携、指揮者の情報収集と発信能力等多くの課題が見つかりました。今後の訓練の課題とします。

消防団研修会開催

令和7年8月28日(木)、消防本部において、総務省が実施している消防団等充実強化アドバイザー研修会を実施しました。部長以上の団員を対象に「チーム運営とリーダーシップ」をテーマとして研修会を実施しました。

倉水分団本部班長 松尾 裕矢

チーム運営とリーダーシップについて研修が行われました。その中で消防団のあるべき姿とは、自分の家族や大切な人、市民の安全を守り困っている人を助けて、避難する人への気配りが必要と言われていました。今回の研修を参考に、地域の方に安心してもらうようにするには何が大切かを考えながら、他の団員と協力して、これからの消防団活動に活かしていきたいと思えます。

高取分団第1部部長 宮野 直史

消防団等充実強化アドバイザー研修会として、受講させていただきました。特にDISC性格類型検査を使用したのが印象的でした。研修終了後に早速、部のグループワークにて共有させていただきました。複数の団員の方に回答もしてもらい、私も出ました。私は慎重型でしたが、団員の皆さんは比較的に社交型が多く私とは反対の方が多かったようです。多様な性格が集まって共に活動するからこそ、今回の研修を参考に頑張ってください。

銀水分団第2部部長 松崎 聡

講演会では、「地域の防災・防火を目指すには消防団の経験者を一人でも多く増やす」の項目があり、消防団は35年で入替える。消防団の事でありますが、少し違和感を感じましたが、①勧誘しやすい②地域の防災リーダーが多くなる。地域の防災力アップに繋がるとの事で、今までは入団したら長く務めるものかと思いましたが、観念に囚われていました。少しでも多くの方に入団し、上げていくことを目標に活動していきたいと思えます。

女性分団活動紹介

女性分団 小柳 育見 田中 陽菜

市立図書館にて「わくわく消防おはなし会」を実施しました。消防おはなし会を実施しました。子供たちを対象に、皆で楽しめる防火活動として手遊び、歌、絵本と紙芝居の読み聞かせ、クイズ、模擬訓練を行いました。

「火災警報器を見たことあるよ」と元気に答えてくれたり、模擬訓練でほふく前進で避難したりと、楽しみながら関心をもち、楽しめました。今後も防火防災活動に取り組み次世代に伝えていきたいと思えます。また、共に活動できる女性団員も募集しています。



第22号
2026年3月発行

発行：大牟田市消防団 予防委員会

令和7年度大牟田市総合防災訓練に参加

地域を守る想いを一つに

令和7年11月16日(日)、大正小学校において大牟田市総合防災訓練が開催されました。これは、大牟田市において発生するおそれのある災害に対し、防災関係機関が協力して総合的に防災訓練を行うことにより、災害時における応急対策の強化、市民の防災意識の高揚及び地域における防災力の向上を図ることを目的とされています。消防団も放水訓練やボート設営訓練、給食訓練の支援を行うなど訓練に参加し、消防団活動紹介ブースでは団員の加入促進も行いました。

副団長 石井 洋徳



令和7年度大牟田市総合防災訓練におきましては、地域住民参集訓練、地域住民避難誘導訓練、災害対策本部設置訓練、放水訓練、救命ボート展開訓練、給食訓練、展示



体験コーナーを消防団にて行いました。地域住民の皆様と共に、災害への意識、地域防災力の向上が確認出来ました。訓練でございました。消防団の地元の事情等に活かし、今後とも各訓練に取り組みまいります。



手鎌分団第1部団員 松尾 英樹

11月16日に行われた大牟田市総合防災訓練に参加しました。私は初めての大きな訓練でしたが皆さんの参加者が楽しく防災を学ばれているのが印象的でした。実際の災害が起きると笑顔どころではないと思えます。日頃からこういった簡易アンダー、ダンボールベッドの組み立て、避難方法など子供たちは遊びながら訓練していると非常に役に立つのではないかと思います。私は今後地域に役に立てる様学びを深め訓練していきたいです。

明治分団 団員 倉本 達矢

私は、10月に入団し、初めて11月16日(日)の大牟田市総合防災訓練に参加させていただきました。明治分団の役割は、元ポンプとなり中友分団に中継して2線目を明治分団に伸ばして放水するというのが主です。事前の手入れの時にホース伸ばしや筒先の使い方、伝令の仕方等、練習することができたので、当日慌てることもなく放水することができました。これからもいろんな状況を想定した訓練を重ねて地域貢献ができるように頑張りたいと思います。



令和8年消防出初式開催

令和8年1月11日(日)、「令和8年大牟田市消防出初式」を3部構成で第一部「式典」を文化会館、第二部「分列行進」を市役所前、第三部「訓練展示」を笹林公園で開催されました。



新年挨拶
団長 西山孝和

新年、明けましておめでとうございます。心新たに消防団の一員として皆様にお会いできることを嬉しく思います。令和八年の輝かしい新春を迎え、年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。はじめに、ご来賓をはじめ関係者の皆様にはご多忙中にもかかわらず、ご臨席賜り、厚く御礼申し上げます。私たちの活動は、皆様の温かいご支援があつてこそ成り立っています。今年も皆様との連携を深め、共に協力し合いながらより良い地域づくりに努めてまいります。消防団員の皆様におかれましては、消防団活動へ対する献身とその勇気に感謝の気持ちを伝えたく思います。あなた方の努力と犠牲を讃える言葉は尽きることがありません。

地域の安全を守るため、日々の活動に情熱を注いで頂いていることを誇りに思います。さて、昨年は様々な困難に直面しました。特に消防団員の減少は、大牟田市消防団だけの問題ではなく多くの地域で課題となつていきます。これはいくつかの理由があります。第一に人々の生活様式の変化があります。近年では、働き方やライフスタイルの変化により消防団に時間を割ける人が減少していることが挙げられます。また、高齢化や若者の参加意欲の低下も要因の一つです。この問題に対処するために消防本部と連携し、地域コミュニティ全体での啓発活動や、消防団の重要性をアピールする取り組みが求められます。特に若い世代に対して、地域貢献の意義や消防団での経験や仲間を持つ価値を伝えることが重要だと考えます。これらを踏まえ、地域全体で協力し、新たな団員の獲得と現在の団員への支援を行うことで消防団の役割を維持し、地域の安全を確保することを目標に掲げます。最後になりますが、皆様の益々のご発展を心願申し上げます。挨拶いたします。



玉川分団第1部団員
平山 莉大

消防団に入り、初めての出初め式に参加しました。当日は厳しい寒さの中、団員の方々のきびきびとした統制の取れた動きに感動しました。また、自分も消防団の先輩方の背中を見て学び、来年以降は自分でも見る方々に感動を与えられるよう訓練に励んでいきたいと思いをしました。式典の中でも最も印象に残ったのは一斉放水です。素早い動きでホースをつないでいき、複数の消防車から一斉に放水される様子と一人ひとりの引き締まった表情がとてもかっこよく映りました。出初め式を通じて私も地域の団員としてこれまで以上に防災意識を強く持ち、皆様から信頼される団員になれるよう訓練に励み成長していきたいと思えます。



中央分団第1部団員
平木 駿音

初めての出初式に出席させてもらった感想は、自分が思っていた以上に大牟田市には多くの消防団の方がおられてびっくりしたのと同時に、火災の際にこれだけの人々が協力して消火活動を行うと思うとすごいと思いました。また、色々な企業にも消防隊がいるのも初めて知りました。これからも団の方々と協力して大牟田市を守っていきたくと思いました。

倉永分団第4部団員
古川 智史

年頭の消防出初め式に出動しました。第2部では、大牟田市役所前で分列行進を行いました。4列縦隊で一糸乱れぬ行進は、消防団員としての意識の高さを感じ、気の引き締まる思いでした。第3部は、笹林公園での訓練披露でした。婦人防火クラブの消防訓練に始まり、東部方面隊による通常点検、西部方面隊による車両点検、南部方面隊及びデンカ隊、三井化学側の自衛消防隊による一斉放水訓練でした。強風、雪が舞う中で訓練披露でしたが、規律よく、統制の取れた姿は見事でした。今回、倉永分団は会場の撤収担当でした。明確な指示の下、各個がタイミングと動き、あつとという間に撤収作業が完了していました。平日頃の訓練の成果がこのような時にも表れるのだなど、思いを新たにしました。今年も地域の皆さまの安心、安全のため、消防団活動を頑張っていきたいと思えます。

白川分団団員
香田 晃斗

私が、消防団に入団したきっかけは、父が消防団として活動しており、昼夜を問わず火災、風水害に出動している姿を見て地域を支える大切な役割だと感じ、入団しました。私自身も、入団し何らかの現場に出動しましたが、先輩方の迷いが無い機敏な動きに少しも早い追いつけるように、微力ではありますが、頑張りたいと思います。



本部分団は令和7年9月から新たに始動した分団です。人材育成を一番の目的とし、災害時には全域に出動し経験を積みながら訓練の企画立案等に携わることで、自己のレベルアップ、地元分団に帰ってからの中心的存在につなげます。

本部分団 分団長
真次 伸彦



今年度より分団本部改め本部分団となり、分団長を仰せつかつております真次伸彦です。新たな試みで、各地域分団より大切な団員さんをお預かり致しております。本部分団では、消防知識と技術向上の為、更には、火災や災害時に迅速にかつ的確に対応できるように定期的な訓練、研修を行う予定です。また、互いの信頼関係を深め、協力し合える団結力を育むことで、いざというときに強いチーム作りを目指します。今後、試行錯誤しながら、本部分団を運営していきまします。皆様からのいろいろなご意見等よろしくお願いたします。



本部分団 部長
吉田 健太

消防団での活動を通じて、業種を超えて集まった仲間との強い絆が生まれました。訓練や出動で互いを支え合う中で、地域を守る役割の大切さを改めて感じています。また、地域の方々とのふれあいや、私たちの活動が安心につながることも実感しました。この思いを若い世代にもつなげ、仲間と共に地域の安全を守り続けたいです。